

生物科学研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
3年次 編入学	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(-)	(-)	(3)	(5)	(3)	(5)	(8)	(3)	(5)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	17 (17)		8 (15)		5 (2)		- (3)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	29 (44)			56 (95)			- (3)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	- (-)	2 (8)	- (-)	1 (2)	5 (5)			
	退学者	1 (1)	1 (6)	2 (1)	- (-)	3 (4)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・() は前年度の数値を、 は外国人留学生を内数で示す。

1 生物科学研究科の活動

本研究科の教育目標は、生物科学の研究分野で世界の評価に堪える研究成果をあげた優秀な課程修了者をより多く輩出することである。しかし今年度は課程修了者の数が8名（留学生1名を含む）と少なく、昨年度の15名から激減している。しかも、その多くは5年を経過した院生であった。

学生生活審議会からの要請もあり、平成13年度に組織した「教員 院生連絡会」と「就職委員会」を5月と2月の2回開催した。そこで、今後は院生が自主的に「院生会」を組織することや、生物科学研究科の一部が生命共存科学専攻に移ったが、院生としてはこれまでどおりの組織として継続させることが決められた。なお、この組織は、生物科学研究科と生命環境科学研究科の構造生物科学専攻、情報生物科学専攻の合同で運営しており、移行期のために旧組織と新組織が入り混じり一部に混乱もあるが、院生の立場に立って運営している。

2 教員の教育業績評価の状況

研究科を担当している教員の教育業績評価は、国内外での学会発表回数（特に国際的な会議での発表）、発表論文数（特に質の高い国際雑誌に掲載された論文）、学位授与数等を総合的に判断している。本研究科では、生物科学系で編纂している英文の年次報告書（Annual Activity Reports）も評価のための参考資料にしている。ただ、教員すべてを評価してデータ化するまでには至っていない。これは新研究科での課題であろう。

3 自己評価と課題

博士課程修了者が前年度より大幅に減少したことは残念であるが、12、13年度に例年になく多くの課程修了者を輩出したことが影響しているものと思っている。関連して、今年度から博士課程委員会として「優秀論文表彰」の制度が出来たが、生物科学研究科として候補者を推薦できなかったことも、いかにも残念である。一方、長年話題になりながら解決策が講じられなかった就職未定の課程修了者の身分保障の問題が、「筑波大学特別研究員」の制度が出来て今年度一気に解決した。しかし、生物科学研究科の修了者全てがなんらかの形で職を得たため、だれもこの制度の御世話にならなかった点は評価できる。

本研究科の課題は、15年度に繰り越す院生が15名いることである。規則の上では15年度は本研究科の最後の年度にあたるので、可能な限り多くの課程修了者を輩出する努力を指導教官にお願いしたい。